

渚野辺総合病院

地域連携NEWS

メディカルサポートセンター
地域医療連携課

HAPPY
NEW YEAR



新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

昨年の新型コロナ第5波は地域医療を逼迫し、社会に多大な影響を及ぼしました。オミクロン株による第6波に備えなければなりません。感染症との戦いは今後も続き、新しい生活様式への転換も余儀無くされています。

現在は感染症対策が第一ですが、今後は医療の機能分化やかかりつけ機能の推進が、更に推し進められることと思います。

一つ一つの医療機関は地域のために役割が明確になり、それを果たすことが強く求められる時代となり、またかかりつけ機能とはどういった機能なのか議論が進み、実行に向け施策が練られていくこととなります。単独で努力することなく地域一丸となって取り組んでいく必要があります皆様方のいっそうのお力添えを頂きたいと考えます。本年も宜しくお願い致します。



医療法人社団 相和会
理事長 土屋 敦

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年も、一昨年と同様にCOVID-19で明け、COVID-19で暮れた年でしたが、いくつかの明るい話題も提供された年でした。一つは、内服薬の登場です。以前のインフルエンザに対するタミフル®などと同様、抗ウイルス薬の登場、承認です。感染初期に内服すれば、重症化を防ぐことが出来ます。二つ目は、3回目のワクチン接種ですが、接種することによって中和抗体が増加し、感染しにくくなると言われています。

人類の叡智と努力によって、少しでも早くCOVID-19を封じ込め、世界中の人々の往来が復活し、笑顔があふれ、そして、“普通の生活”に戻ることを心から祈っています。



渚野辺総合病院
病院長 世良田 和幸

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症は依然収束の兆しは見えず、厳重な注意が必要な状況が続いております。ただ、一年前のこの時期、我々はワクチンも治療薬も持たず年末年始の感染急増に対峙しておりました。現在国民の8割がワクチン2回接種を終え、すでに3回目接種も始まっています。世界がコロナワクチンに打ち勝った年として2022年が記憶されることを期待しております。

メディカルサポートセンターといたしましては、可能な限り病院から外に出て行き、ご協力いただいている医療施設の皆様と顔の見える関係を築いていきたいと考えております。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



渚野辺総合病院
メディカルサポートセンター長
副病院長 小池 幸宏

